

シンケンのスタッフ  
加賀江さんが  
本を発売されました!

# 住む、ということ

## 里山のちいさな暮らし

2023年  
12月7日  
発売

家族5人で鹿児島県の里山に暮らす、加賀江氏。住まいのあり方や家にこめる思い、日々のようすを発信する加賀江氏のインスタグラムは、多くの著名人からもフォローされています。

今回初となる著書には、自ら設計した天然素材の家づくりのプロセス、土地選びや資金計画も掲載。「ふだんをいちばん幸せに」がコンセプトの暮らしからは、家と関わる楽しさが伝わります。

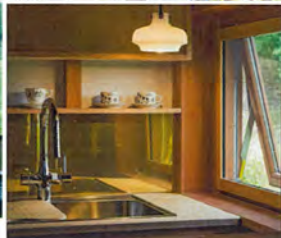
「ずっと居たい」と思える場所としての家づくり、そのための土地選びやお金の使い方から、季節を感じる暮らしまで。  
加賀江さんの里山での暮らしにある“しあわせ”と“豊かさ”が、みなさんの心に届きますように。



10万人が  
フォローする  
鹿児島  
の暮らし

豊かに穏やかに、愛おしく、  
加賀江さんの住まいには、  
人間らしく暮らせる  
心の在りかたがまつまっています。  
—徳永有美(キタスタ)—

A5判 オールカラー  
128ページ 1,760円(税込)



もくじより

chapter 1 家と暮らしがつながった日

「ずっと居たい」と思える場所／心穏やかでいられるか／末長く愛せるか ほか

chapter 2 思いをこめた家づくり

土地は175万円／なぜ田舎を選んだか／陽だまりのある家／動く壁 ほか

chapter 3 暮らしが人生

家で人は変わる／窓で暮らしは変わる／家事が楽しくなる家／田舎での子育て ほか



フォロー  
10万人超

加賀江さんの  
インスタグラム



かがえひろのぶ 1980年生まれ。2013年から鹿児島県で暮らす。株式会社シンケンで働き、小・中学生3人の子育てをしながら、共に田畑を耕し、太陽、風、木々の匂いを感じる生活を楽しむ。

冬の足音が近づいてまいりました。私どもは創業120周年を迎えた版元の婦人之友社です。  
長年、皆さまの生活に役立つ実用書と雑誌を世に送り出して参りました。

このたびは加賀江広宣著

## 『住む、ということ 里山のちいさな暮らし』

を12月7日に発売の運びとなりました。

「ふだんをいちばん幸せに」と願いながら、鹿児島県の里山に家族5人で暮らす加賀江広宣さん。地元の工務店に勤務しながら、自身の家づくりや住まいについて発信するインスタのフォロアーが10万人をこえ、多くの共感を呼んでいる小中学生の子どもを持つお父さんです。加賀江さんの言葉を読んでいると、「住む」という誰しも共通の生きる原点からは、日常の家事、子育て、人生、夫婦の関係、自然や地域とのつながりなど、テーマが無限に広がっていくことに気づかされます。それは、ふだんから私たちが大切にしている「どう生きるか」の一つの答えでもあると思いました。

今回は、自然と循環に配慮した加賀江さんの家づくりと、欲張らず豊かに生きる暮らしに焦点をあてながら、美しく心地よい写真とともに、1冊の本にまとめました。家づくりと聞くと、すでに家は建てたから自分にはあまり関係ない、と思われる方もいるかもしれません。けれど、本書を読んだ編集部の1人が次のように言いました。「わが家は、すでに古くなった家だけれども、加賀江さんのおかげで、家に対する考え方が変わった。自分と住まいの関係性が変わる本だと思う」と。また「家が古くなることに価値を見出せたことも嬉しい」とも。

これから家を建てたい方、里山などの自然あふれる場所で暮らしたい方にはもちろん、心豊かに暮らしたい、質のよい住まいを見直したい方にも満足いただける本だと思います。窓ひとつ、照明ひとつ、テーブルひとつにも、新しい視点を与えられ、しぜんに生活を慈しみたくなるはずです。

わたし自身も、毎日「住む」ということと向き合う中で、「家にまつわる基本的なことには、何か正解があるわけではありません。日々そこに身を置き、住むことを感じていると、思いや行動がむくむくと湧き上がってきて、だんだん形になっていきます。——はじめにより抜粋」を実感しています。こんな暮らしがしたい、こんな生活をつくり出したい、と思うことが楽しく感じられます。

ぜひ、みなさまの生活のそばに置いて、お読みいただければ幸いです。

貴媒体にてご紹介くださいますよう、よろしく願い申し上げます。

日ごとに寒さも増しておりますが、どうぞお元気で、よきクリスマスをお迎えください。

2023年11月30日

婦人之友社書籍編集部 編集長 小幡麻子